

平成 25 年度

九州共立大学

『地域貢献・連携事業』 報告書

平成 27 年 3 月

経済学部・スポーツ学部・共通教育センター

総合研究所・トレーニングセンター・生涯学習研究センター

地域と大学が共通認識を持つために

－平成 25 年度 九州共立大学『地域貢献・連携事業』報告書

の刊行にあたって－

学長 福原 弘之



本学は昭和 40 年の開学以来、学是「自律処行」に基づき、地域のニーズに対応した人材育成を行って地域社会に有為な人材を輩出するとともに、本学が有する教育的資源を地域に還元することによって地域に対する貢献を行ってまいりました。

平成 6 年に福原学園に設置された生涯学習研究センターは、年間を通して地域の方々に学習・教育プログラムを提供しています。また、本学では、総合研究所、トレーニングセンターのみならず学部単位においても地域貢献活動を行ってきました。

さて、人口減少時代を迎えた日本は、全体的に人口が減少するだけでなく、大都市への人口の集中による地方の人口減少が大きな課題となっています。人口減少に伴う地方自治体や地方経済の疲弊・衰退は、地方の消滅が現実のものになっていることを示しています。

この状況において、本学がこれまで培ってきた地域貢献・地域連携のノウハウをどのように活かしていくか、ということを総体的に検討すべき時期にきています。その意味で、本学の地域貢献・連携事業をとりまとめた本報告書は大きな意義を有すると言えます。

大学において何をもって地域に貢献すべきか、また、どのように地域に貢献すべきか、という問題は、地域と大学が共通の認識をもって取り組んでいかなければなりません。今回の報告書の刊行がその共通認識の深化に寄与し、地域の皆様からのご教示を頂戴できる機会が増えることを願っています。

平成 25 年度 九州共立大学『地域貢献・連携事業』報告書

の刊行にあたって

副学長 奥田 俊博



本学は、福原学園創設者福原軍造が、学是「自律処行」に基づき、学生と教職員が共に立つことを目指して設置された大学であり、地域と時代のニーズに対応しながら教育研究組織を改編し、教育研究活動を充実させてまいりました。この度刊行される「平成 25 年度 九州共立大学『地域貢献・連携事業』報告書」の刊行は、本学が取り組んでいる教育研究活動のうち、地域貢献・連携事業を中心にとりまとめたものです。

現在、日本の大学は激動期にあり、高等教育行政も矢継ぎ早に施策を打ち出しています。地域貢献・連携についても、大学等が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援し、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的とした「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」や、地域発展に係る改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対する支援を強化することを目的とした私立大学等改革総合支援事業（タイプ 2）が行われています。

本学においても、学生と教職員が共に立つことを基盤として、地域と共に立つことを目指す教育研究活動が拡充しています。今回の報告書が、この拡充を後押しする媒体になることを信じています。

「地域コミュニティの中核となる大学を目指して」

九州共立大学 スポーツ学部 教授

(兼) 九州共立大学・九州女子大学・同短期大学

生涯学習研究センター所長 古市勝也

我が国の「持続可能な国」づくりを目指して、大学等の高等教育機関への期待は大きいものがあります。すなわち、「教育基本法」を踏まえた、中央教育審議会答申「第2期教育振興基本計画について」(平成25年4月25日)では、「(4) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成」を掲げ、「活力あるコミュニティ形成に向けた学習環境・協働体制整備」や「COC構想 地域コミュニティの中核的存在としての大学機能強化 等」を挙げています。また、「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」(平成25年1月)では、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習活動や体制づくりの推進」の中で「地域社会と共生する大学等の高等教育機関づくりの推進」として「大学等の生涯学習機能強化に向けた取り組みの推進」を挙げています。

さらに注目すべきは、文部科学省が2016年度から、国立大学を「世界最高水準の教育研究」「特定の分野で世界的な教育研究」「地域活性化の中核」の3グループに分類し、「交付金配分見直し」(平成26年12月18日、日本経済新聞)とする方針が明らかにされたことです。今や、大学に求められる役割機能の3本柱の一つに「地域活性化の核」になることが求められ、そのためには「地域コミュニティの中核的存在としての大学機能強化等」が求められています。大学にとって「待ったなし」の喫緊の課題です。

振り返ると、本学園・大学でも、「生涯学習研究センター」や「総合研究所」及び「トレーニングセンター」、さらには「各学部・学科」等で、福岡県・北九州市や岡垣町等近隣の市町との連携協力による各種事業等を展開し、一定の評価を得てきました。しかし、それらの対応が、各組織が独自にバラバラで対応してきたという反省の声も聞かれるようになりました。

今や大学全体で組織化され一致した連携協働体制づくりが求められています。

この度、本学では、大学本部はじめ、共通教育センター、総合研究所、トレーニングセンター、生涯学習研究センターが連携して、地域との連携・協力講座を掘り起こし、冊子として纏めていただくことになりました。これが、これからの大学と地域の連携事業の参考モデルとなるとともに、起爆剤となつていただくことを期待します。(まだまだ、埋もれており、気づかない連携事業も多くあると思われます。)

今後、本学が「地域コミュニティ活性化の中核拠点」となるよう、当生涯学習研究センターも今まで以上に努力し、学園のために、地域のために汗を流して参ります。

どうぞ、今まで以上に連携協力、ご支援・ご指導をお願いいたします。

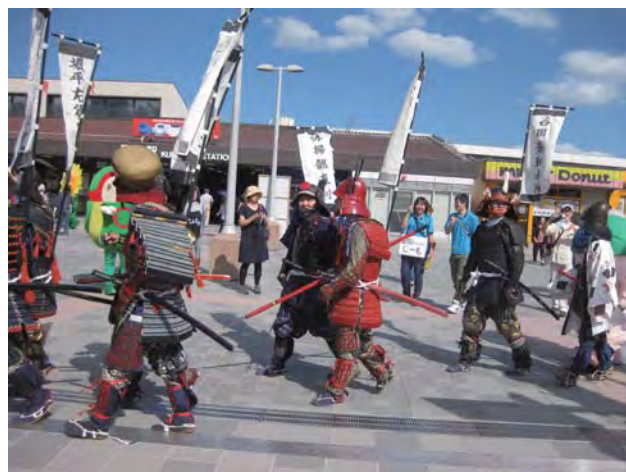
目 次

1. 北九州市制 50 周年記念事業：「黒崎街道地域活性化イベント」 …P 1, P 2
2. 平成 25 年度北九州市八幡西区「堀川まちおこし事業－堀川まちおこしいっせい清掃－」 …P 3, P 4
《経済学部 教授 末永 勝昭》
3. 平成 25 年度地域課題解決のための NPO と地域との情報交換会 …P 5
4. 民生委員・児童委員及び校区社協会長・担当者研修会 …P 6
《スポーツ学部 特任教授 古市 勝也》
5. 地域コミュニティセミナー「スポーツの怪我と救急法の基礎知識」 …P 7, P 8
《スポーツ・トレーニングセンター 副所長(スポーツ学部 助教) 篠原 純司》
6. 元気の出る糖尿病教室 …P 9
《スポーツ学部 准教授 樋口 行人》
7. 大学院公開講座「三種の神器をめぐって」 …P 10
8. シニアサマーカレッジ「伊勢神宮の神と祭祀」 …P 11
《共通教育センター 教授 工藤 浩》
9. 北九州市立生涯学習総合センターとの共催事業「北九州市民カレッジ」 …P 12
10. 北九州市立年長者研修大学校穴生学舎との共催事業「シニアサマーカレッジ」 …P 13, P 14
11. 北九州市社会福祉協議会との共催事業「ボランティアフェスタ in 八幡西」 …P 15, P 16
《生涯学習研究センター 所長 (スポーツ学部 教授) 坂井 充》
12. 太陽光と風力を用いた親子ものづくり教室 …P 17, P 18
《総合研究所 特別研究員 山口 静夫》

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：北九州市八幡西区役所総務企画課 *北九州市「黒崎地区商業活性化：まちおこし協議会」（黒崎協議会） 事業名：北九州市制 50 周年記念事業：「黒崎街道地域活性化イベント」 参加人数：本学学生 33 名、教員 2 名
九州共立大学	事業責任者	末永 勝昭
	所 属	経済学部 経済・経営学科（国際・地域経済コース、他）
	実施担当者	末永 勝昭
	所 属	経済学部 経済・経営学科
	連 絡 先	《電話番号》研究室：093 - 693 - 3208 携帯電話：090 - 1160 - 9565 《E-mail》suena@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》北九州市八幡西区役所総務企画課 《職・氏名》八幡西区役所次長 井上 智明 総務企画課イベント担当 上川 剛秀 《電話番号》093 - 642 - 1441 《E-mail》takehide_kamikawa01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数		10 月 12 日《計 1 回》
実施場所		北九州市黒崎「黒崎ひびしんホール」前広場、黒崎駅前広場、黒崎商店街一帯
事業対象者 参加人数		九州共立大学：八幡西区まちおこし委員：末永勝昭（代表）、有村安生、学生：33 名 事前企画会議：計 5 回（本学での打ち合わせ会議 3 回を含む） 事業対象者：北九州市八幡西区役所総務企画課、北九州市「黒崎地区商業活性化：まちおこし協議会」、参加大学：九州共立大学、北九州市立大学
経 費		北九州市事業費、その他
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 【目的】 北九州市制 50 周年記念行事で、長崎街道開通 400 年関連の「黒崎街道開通まちおこし」イベントへの参加。 【内容】 （１）北九州市制 50 周年記念行事・イベントの研修（勉強会）計 3 回 場所：本学経済学部ゼミナール教室 （２）北九州市制 50 周年記念行事・イベントの研修（実習） 「黒崎ひびしんホール」前広場のメイン・ステージを中心に、黒崎駅前広場、黒崎商店街一帯の各会場で、本学学生や北九州市立大学学生がキャラクター 50 体に変身して様々なイベントを披露。多くの子供たちや地元の人々の人気キャラとして大活躍した。 2. 実績 【ゆるキャラ企画・事前打ち合わせ会議】計 5 回 八幡西区役所担当者 2 名、イベント企画会社 2 名、本学教員 1 名（末永勝昭）その他学生等々。 3. 効果 （１）参加学生にとって、事前勉強会や企画会議参加、イベント活動を通じて地域との連携が緊密に取れるようになった。 （２）地域活性化イベントの実態を知ることができ、「地域活性化」や「まちおこし」

	のイベント・ノウハウを学ぶことができた。 (3) 地元の人達に、福原学園・九州共立大学の存在をPRできた。
今後の改善内容 及び展開	＊経済学部のカリキュラムに、「地域活性化プログラム」(仮称)を導入して、一般学生が授業科目を通じて地域社会における課題を学習し、課題解決の為の実践的活動を行える機会(受け皿)を設けていくことも必要と思われる。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：北九州市八幡西区役所総務企画課・北九州市建築都市局、折尾総合整備事務所計画課＊地元堀川まちおこし実行委員会 ＊地元 5 大学の学生協議会 事業名：地域経済活性化事業：平成 25 年度北九州市八幡西区「堀川まちおこし事業－堀川まちおこしいっせい清掃－」
九州共立大学	事業責任者	末永 勝昭
	所 属	経済学部 経済・経営学科（国際・地域経済コース）
	実施担当者	末永 勝昭
	所 属	経済学部 経済・経営学科
	連 絡 先	《電話番号》研究室：093 - 693 - 3208 携帯電話：090 - 1160 - 9565 《E-mail》suenaka@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》北九州市八幡西区役所総務企画課 《職・氏名》八幡西区次長 井上 智明 総務企画係長 佐藤 規具治 《電話番号》093 - 642 - 1441 《E-mail》kikuharu_satou01@city.kitakyushu.lg.jp
事業実施日・回数		10月6日《計 1 回》
実施場所		北九州市八幡西区折尾・中間市・水巻町の「堀川」流域一帯
事業対象者 参加人数		九州共立大学：八幡西区まちおこし委員：末永勝昭（代表）、有村安生、学生：48 名 事前企画会議：計 5 回（共立大教員 1 人、学生 2 名、西区役所 2 名、地元商店街連合代表 2 名、地元各代表者 7 名、地元大学代表 5 名、他） 事業対象者：八幡西区役所、折尾商連、地元 5 大学、高校、地元自治区会、子供会、婦人会、青年部、NPO 法人 JR 折尾駅、企業、折尾警察署、八幡西消防団、他 計約 380 名
経 費		北九州市事業費、その他
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 【目的】 灌漑や水運を通して流域の繁栄に貢献した「堀川」の一斉清掃事業を通して、堀川の歴史的価値を再認識すると共に、堀川流域（折尾・中間市・水巻町）のまちおこし・地域活性化を目指す。 【内容】 堀川流域の一斉清掃 毎年、上記の各団体と連携を取りながら地域参加型の清掃活動を行っている。併せて、地域との連携の下、地域参加、地域貢献事業をはじめ大学間交流・地域の人々との交流をも目指している。 2. 関連事業 (1)「堀川の史跡：バスツアー」への参加（平成 22・23 年度のバスツアーを本学部の学生が企画・実施） (2)「堀川地域まちおこし事業：研究会」（平成 23 年度：本学経済学部「国際・地域経済コース主催」） ・テーマ「地域の活性化事業について」：外部講師招聘（2 名） ・場所：九州共立大学 経済学部第一学舎 3 階 34 教室 ＊講師：水巻町歴史資料館学芸員、折尾まちづくり委員会委員の方を招聘。

	3. 実績 【清掃事業：企画・事前打ち合わせ会議】計 5 回 共立大教員 1 人（実行委員：末永勝昭）、学生 2 名、西区役所 2 名、地元商店街連合代表 2 名、地元各代表者 7 名、地元大学代表 5 名、他） 4. 効果 （1）参加学生にとって、企画会議や清掃活動を通じて地域との連携が緊密に取れるようになった。 （2）地域活性化事業の実態を知ることができ、「地域活性化」や「まちおこし」のノウハウを学ぶことが出来た。 （3）北九州市等々の行政自治体や地域団体との連携・ネットワーク化が図れた。 （4）地元の人達に、福原学園・九州共立大学の存在をPRできた。
今後の改善内容及び展開	＊経済学部のカリキュラムに、「地域活性化プログラム」（仮称）を導入して、一般学生が授業科目を通じて地域社会における課題を学習し、課題解決のための実践的活動を行える機会（受け皿）を設けていくことも必要と思われる。



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
事 業 名		事業名：平成 25 年度地域課題解決のための NPO と地域との情報交換会 主催名：北九州市市民文化スポーツ局市民部 市民活動推進課
九州共立大学	事業責任者	古市 勝也
	所 属	スポーツ学部 福原学園 3 大学共管生涯学習研究センター
	実施担当者	古市 勝也
	所 属	スポーツ学部 福原学園 3 大学共管生涯学習研究センター
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3403 携帯：090-3883-7505 《E-mail》katsuya@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》北九州市市民文化スポーツ局市民部 市民活動推進課 《職・氏名》市民部長・櫻江 信夫 《電話番号》093-582-2155
事業実施日・回数		平成 26 年 2 月 21 日 1 回（2 時間）、2 月 25 日 1 回（4 時間）
実施場所		九州共立大学古市研究室、北九州市八幡西区生涯学習総合センター
参加人数		《九州共立大学》ファシリテーター：古市 1 人 事前打ち合わせ：3 人（共立大 1 人・市職員 2 人） 《事業対象者》地域団体代表・NPO 団体代表等：40 人
経 費		北九州市事業費
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 目的：北九州市の地域活性化を図るため、日頃より地域課題の解決に取り組んでいる、NPO や地域団体の代表者が一堂に会して、地域活動の情報を交換し、顔の見える関係づくりをする。さらに、今後の地域課題解決に向けて協力・連携体制を構築できるようにする。 2. 実績 ＜事前指導打ち合わせ＞2 月 21 日 事業プログラム作成についての指導・打ち合わせ 1 回：2 時間 古市指導・市職員 2 人と打ち合わせ。場所：九州共立大学・古市研究室 地域団体 6 団体×3 人、NPO 団体 6 団体×3 人参加＋市職員 4 人 3. 効果 ① 地域団体交流のプログラムの開発・実践ができた。授業に活用できる。 ② 北九州市の地域団体の代表者が連携・ネットワーク化が図れた。 ③ 北九州市の地域団体の代表者の福原学園の存在を PR できた。 ④ 北九州市の市民文化スポーツ行政との連携が図れるようになった。
今後の改善内容 及び展開		① 北九州市からの依頼があれば、さらにプログラムの進化を図りたい。 ② 仮称「九州共立大学学生消防隊」等を結成して地域団体と交流を図りたい。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
事 業 名		事業名：民生委員・児童委員及び校区社協会長・担当者研修会 主催名：北九州市門司区社会福祉協議会
九州共立大学	事業責任者	古市 勝也
	所 属	スポーツ学部 福原学園 3 大学共管生涯学習研究センター
	実施担当者	古市 勝也
	所 属	スポーツ学部 福原学園 3 大学共管生涯学習研究センター
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3403 携帯：090-3883-7505 《E-mail》katsuya@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》北九州市門司区社会福祉協議会 《職・氏名》会長 宮原 深海 《電話番号》093-331-3688（担当：一ノ宮） 《E-mail》
事業実施日・回数		平成 26 年 2 月 24 日 1 回 90 分
実施場所		門司港レトロ観光物産館 2 階多目的ホール
参加人数		《九州共立大学》講師：1 人（古市） 《事業対象者》校区の民生委員・児童委員及び校区社協会長・担当者
経 費		相手方
事業内容 実績及び効果		- 事業目的・内容等 - 目的「門司区の各校区の民生委員・児童委員及び校区社協会長・担当者に対して、会議の持ち方」について講義した。 - 講義テーマ「地域の会議手法」について - 実績 校区の民生委員・児童委員及び校区社協会長・担当者：61 名参加 - 効果 - 北九州市の地域福祉事業に貢献できた。 - 学生が「介護等体験実習」でお世話になっている関係者もあり、連携できて良かった。 - かねてより、「地元を大事にしよう」とする学園の方針に沿って、地域福祉関係者との連携・ネットワークが図れるようになった。
今後の改善内容 及び展開		- もっと福原学園の地域コミュニティの中核（COC 活動・事業）について PR したい。 - 福原学園の 3 大学共管の生涯学習研究センターの公開講座・資格講座・キャリア支援講座の活用を PR し、利用推進を図りたい。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
事 業 名		主 催：九州共立大学 スポーツ・トレーニングセンター 事業名：地域コミュニティセミナー「スポーツの怪我と救急法の基礎知識」
九州共立大学	事業責任者	宇野 美津夫（スポーツ・トレーニングセンター所長）
	所 属	スポーツ学部
	実施担当者	篠原 純司（スポーツ・トレーニングセンター副所長）
	所 属	スポーツ学部
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3240 《E-mail》jshinoha@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》生涯学習研究センター、総合研究所
	機 関 責 任 者 連 絡 先	《職・氏名》生涯学習研究センター所長・坂井 充、総合研究所所長・牧角 龍憲 《電話番号》093-691-6550、093-691-3233 《E-mail》matsuda@kyukyo-u.ac.jp、makizumi@kyukyo-u.ac.jp
事業実施日・回数		平成 26 年 3 月 22 日 1 回
実施場所		スポーツ学部 B 館 204・205 教室
参加人数		《九州共立大学》 《事業対象者》25名
経 費		なし（参加費無料、講師への謝礼・講義料等なし）
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 本事業は、スポーツ・トレーニングセンターから地域の方々へ健康・スポーツに関する情報を発信することを目的とした。今回の講義は、保護者、スポーツ指導者、スポーツと救急法に興味関心のある一般の方を対象とし、①スポーツ活動中の頭部外傷（脳しんとう含む）について、②スポーツ活動中の突然死についての二部構成で行った。②の突然死の講義では AED を用いた心肺蘇生法の実技も行った。 2. 実績 スポーツ・トレーニングセンターとしてこのようなセミナーを開くことは初めての試みであったが、平成 26 年は引き続き健康・スポーツに関するセミナーを計 4 回行う計画である。 3. 効果 本学はスポーツ学部を有しており健康、スポーツ、教育分野を専門とする教員が多数在籍する。現代の日本社会において、これらの分野の知識や技術は広く求められており、地域コミュニティセミナー等を通しての情報発信は、年齢や性別を問わず様々な方々に有益であると考ええる。
今後の改善内容 及び展開		今回のセミナーでは、スポーツ・トレーニングセンターが受付窓口となったが、人員の不足から十分に機能しない面があった。また、広報活動に関しても改善が必要であると感じた。今後は、北九州市や北九州市体育協会からの後援を受けることなども検討し、より多くの方々に参加していただけるようにしたい。

地域コミュニティセミナー「スポーツの怪我と救急法の基礎知識」



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：医療法人ウエルネスクリニック 事業名：元気の出る糖尿病教室
九州共立大学	事業責任者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部 スポーツ学科
	実施担当者	樋口 行人
	所 属	スポーツ学部 スポーツ学科
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3313 《E-mail》higuchi@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》医療法人ウエルネスクリニック 《職・氏名》院長 大久保 正士 《電話番号》0820-22-1024 《E-mail》mokubo@wellness-cl.jp
事業実施日・回数		12月15日《計 1 回》
実施場所		ウエルネスクリニック 山口県柳井市柳井 1547-1
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：教員 1 名 学生 4 名 参加 事業対象者：地域住民 参加者人数：42名
経 費		医療法人ウエルネスクリニックより支出
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 医療法人ウエルネスクリニックでは、糖尿病患者及びその家族を対象として月に 1 回、糖尿病教室を開催している。今回、運動に関する知識と実践の普及を目的とした糖尿病教室を「無理のない健康づくり運動の理論と実際」というテーマで開催した。 内容は、40 分の講演と 20 分ほど学生による座位体操の運動実践を行った。 2. 実績 講演、運動実践ともつつがなく行われ、事後の質問も活発で好評であった。42 名の参加者数は、通常の倍近い数字であった。 3. 効果 医療法人ウエルネスクリニックで週 1 回行っている健康体操教室への参加促進にもなったと思われる。参加者が講義のみでは飽きるのではないかと考え、学生による運動指導を入れたが、ねらい以上に好評であった。
今後の改善内容 及び展開		やや遠方であり、場所の下見ができなかったため、学生の事前練習と違う形となった。メインの学生（4年生）にもよい経験になったと思われるし、サポートの3年生はよい実演を見ることで益々意識も高まったようである。可能ならば継続したいと考える。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：梅光学院大学生涯学習センター 事業名：大学院公開講座「三種の神器をめぐる」
九州共立大学	事業責任者	
	所 属	
	実施担当者	工藤 浩
	所 属	共通教育センター
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3060 《E-mail》kudoh@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》 《職・氏名》 《電話番号》 《E-mail》
事業実施日・回数		3月9日《計 1 回》
実施場所		梅光学院大学図書館講堂
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： 事業対象者：地域住民 参加者人数：157名
経 費		
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 「三種の神器をめぐる」の講演、シンポジウム「神話教育の現状」のパネリスト 2. 実績 157名の受講者に、上記内容で報告した。 3. 効果 伊勢神宮・出雲大社の式年遷宮の年にあたって多少なりとも、神話と歴史に関する認識の啓蒙を行い得た。
今後の改善内容 及び展開		特記事項なし

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：北九州市年長者研修大学 穴生学舎 事業名：シニアサマーカレッジ「伊勢神宮の神と祭祀」
九州共立大学	事業責任者	坂井 充
	所 属	スポーツ学部・生涯学習研究センター所長
	実施担当者	工藤 浩
	所 属	共通教育センター
	連 絡 先	《電話番号》093-693-3060 《E-mail》kudoh@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》 《職・氏名》 《電話番号》 《E-mail》
事業実施日・回数		8月23日《計 1 回》
実施場所		自由ヶ丘会館
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学： 事業対象者：55歳以上の地域住民 参加者人数：52名
経 費		
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 「伊勢神宮の神と祭祀」講義 2. 実績 52名の受講者に対して、伊勢神宮の歴史とアマテラス信仰の変遷について講じた。 3. 効果 第63回式年遷宮の年にあたり、伊勢神宮に対する関心を多少なりとも高められた。
今後の改善内容 及び展開		資料にルビがなく読みにくいとの指摘があり、次年度の実施にはこの点に留意したい。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：北九州市教育委員会 北九州市立生涯学習総合センター 事業名：北九州市民カレッジ
九州共立大学	事業責任者	坂井 充
	所 属	スポーツ学部・生涯学習研究センター所長
	実施担当者	松田 正視
	所 属	生涯学習研究センター
	連 絡 先	《電話番号》093 - 691 - 6550 《 E-mail 》matsuda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》北九州市教育委員会 北九州市立生涯学習総合センター 《職・氏名》 《電話番号》093 - 571 - 2735 《 E-mail 》
事業実施日・回数		平成 25 年 5 月 20 日～平成 26 年 2 月 21 日 全 13 講座
実施場所		九州共立大学 自由ヶ丘会館 3 階
事業対象者 参 加 人 数		福原学園：教員延 14 名(九共大 6 名・九女大 6 名・九女短大 2 名) 事業対象者：一般市民 参加者人数：129 名
経 費		無し
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 北九州市教育委員会と連携して行う事業で、市民の高度で専門的な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進、地域社会の活動向上及び生涯学習社会を担う人材の育成を図ることを目的としている。 2. 実績 平成 25 年度は、前期・後期で 13 講座の開講を実施した。 受講生も延 129 名で多くの市民が専門的な講座を受講し好評を得ている。 3. 効果 シリーズ化している講座には、リピーターも多くいる。 また、年によっては受講生が集まらず不開講となる講座もあるが、概ね開講が出来ている。
今後の改善内容 及び展開		各講座は、各教員の企画によるものであるが、受講生が集まらず不開講になる場合がある。ついては、過去の実例も含め、企画内容等について適切なアドバイスをし、不開講となる講座がないように努めたい。 また、今年度は延 14 名の教員が講座を開講したが、より多くの教員が講座を開講し地域貢献に努めることを促進したい。

九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 事業名：「シニアサマーカレッジ」
九州共立大学	事業責任者	坂井 充
	所 属	スポーツ学部・生涯学習研究センター所長
	実施担当者	松田 正視
	所 属	生涯学習研究センター所長代理
	連 絡 先	《電話番号》093 - 691 - 6550 《E-mail》matsuda@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》北九州市立年長者研修大学校 穴生学舎 《職・氏名》指導員 平野 昌恵 《電話番号》093 - 645 - 6688(代) 《E-mail》anougakusha008@tune.ocn.ne.jp
事業実施日・回数		7 月 19 日(金)～9 月 27 日(金) 毎週金曜日・全 17 回
実施場所		九州共立大学 自由ヶ丘会館 3 階
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：講師 16 名 (九共大 10 名・九女大 4 名・九女短大 1 名・自由ヶ丘高校 1 名) 事業対象者：60 歳以上のシニア 参加者人数：64 名
経 費		教室借用費…生涯学習研究センターが負担 コピー代等の消耗品費…北九州市立年長者研修大学校穴生学舎が負担
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 《目的》 高齢者の多様な学習ニーズに応え、生涯学習及び社会参加の促進を目的とする。 《内容》 学校法人福原学園設置校の教育職員が 1 コマずつを担当し、リレー講義的に 16 コマの講義を実施する。 また、期間中の 1 日を学外研修としてバスハイクを実施している。 2. 実績 平成 5 年度より北九州市立年長者研修大学校穴生学舎の依頼により「シニアサマーカレッジ」を開講し、現在まで毎年 7 月～9 月の期間に実施している。 3. 効果 定員 60 名程度で受講生を募集するが、毎年、定員を充足している。 また、受講生の約半数はリピーターであり、好評を得ており、今後も継続していく予定である。 講座修了後のアンケートでも高い評価を受けている。
今後の改善内容 及び展開		リピーターが多いことから、講義内容について前年度と同じにならないように講師を変更して実施する。 また、座学がほとんどであるが、生涯学習研究センター開講講座の講師も含め、動きのある講義やモノづくりの講義等、講義構成の工夫が必要と思われる。

《平成 25 年度 シニアサマーカレッジ》



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：ボランティアフェスタ in 八幡西実行委員会 事業名：ボランティアフェスタ in 八幡西
九州共立大学	事業責任者	坂井 充
	所 属	生涯学習研究センター
	実施担当者	山田 愛子
	所 属	生涯学習研究センター
	連 絡 先	《電話番号》093 - 691 - 6550 《E-mail》a-yamada@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名	《機 関 名》社会福祉法人 北九州市八幡西区社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター
	責 任 者 連 絡 先	《職・氏名》事務局長 白柿 美千代 《電話番号》093 - 642 - 5035 《E-mail》mic-shiragaki@kitaq-shakyo.or.jp
事業実施日・回数		平成 26 年 2 月 23 日(日)
実施場所		九州共立大学 自由ヶ丘会館 4 階 多目的ホール
事業対象者 参 加 人 数		九州共立大学：生涯学習研究センター職員 2 名 事業対象者：一般市民・各ボランティア団体 参加者人数：250 名
経 費		無し
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 「みんな集まれっ！来て！見て！聞いて！part2～誰もが主役のボランティア～」をテーマに八幡西区内を中心に活動している各ボランティアグループによる活動PR発表をメインに行い、パネル展示コーナーや体験コーナー、作業所による販売コーナーを設けて、ボランティア活動に参加するきっかけづくりや、これからの活動に役立つ情報など、新しい発見や出会いを見つけていただける場として開催します。 2. 実績 平成 25 年度で第 11 回の開催を数え、第 1 回から共催として参画している。 3. 効果 各ボランティア団体の交流や市民の集いの場として、好評を得ており、親子連れの来場者も多くいる。 また、各ボランティア団体の発表の場を設けることにより、活動の活性化にもなっていると思われる。
今後の改善内容 及び展開		一昨年度より、内容をリニューアルし、多くのボランティア団体が参加・発表をするようになった。これにより、来場者やフェスタ自体の雰囲気も賑やかなものとなり好評を得ている。 内容等については、本センターからも実行委員として参加している実行委員会にて行われるため、各団体と協議を行い検討をする。

《平成 25 年度 ボランティアフェスタ in 八幡西》



九州共立大学 地域貢献・連携事業報告書

年 度		平成 25 年度
主催・事業名		主 催：九州共立大学総合研究所 事業名：太陽光と風力を用いた親子ものづくり教室
九州共立大学	事業責任者	牧角 龍憲
	所 属	総合研究所 所長
	実施担当者	山口 静夫
	所 属	総合研究所 特別研究員
	連 絡 先	《電話番号》(093)693-3033 内線 242 《E-mail》yama1218@kyukyo-u.ac.jp
連携機関	機 関 名 責 任 者 連 絡 先	《機 関 名》 《職・氏名》 《電話番号》 《E-mail》
事業実施日・回数		8月17日・8月18日《計 2 回》
実施場所		九州共立大学スポーツ学部 B 館 2 階 B202, B203, B204
事業対象者 参加人数		九州共立大学：先生 5 名とアルバイト学生 8 名で教室を運営 事業対象者：主に小学生（幼稚園～中学生） 参加者人数：子ども 62 名とその保護者 45 名の合計 107 名
経 費		¥ 307,109
事業内容 実績及び効果		1. 事業目的・内容等 日本のものづくり技術の継承と持続的な発展という観点により、小学生の早い時期からものづくり教室を通じて太陽光、風力などの自然エネルギーやコイルなどによる発電の利用法等について体験していただく。今回の工作テーマは次の6テーマから成る。低学年向けの太陽電池で動作する①ソーラープロペラと②ソーラー・ブラシロボット、中学年向けの風力で発電する③プロペラ形風車と④ペットボトル風車および高学年向けの形状記憶合金の一種であるバイOMETALファイバーを利用した⑤いやし葉オルゴールとハンドパワー発電機の原理となる⑥クリップモータの作成を行う。これによりものづくりの面白さと達成感を感じていただく。 2. 実績 平成 14 年 8 月に最初の「小学生ものづくり教室」を九州共立大学総合研究所主催で開催し、それ以後ほぼ毎年開催して平成 25 年度で第 11 回目となりました。その間、平成 20～24 年は、科学技術振興機構(JST)の科学コミュニケーション推進事業の地域活動支援による支援金で開催いたしました。すでにこの教室に参加した子どもが 1080 名、その保護者が 740 名程度に至っております。 3. 効果 北九州市八幡東区に児童科学館および戸畑区に九州工業大学や北九州イノベーションギャラリーがあり、その近隣地域では子どもたちを対象にした科学教室等が積極的に行われているが、本学が所在する八幡西区ではこの種の機会がほとんどないといえる。そのため、本学近隣の 13 の小学校に開催案内を継続的に周知することにより、参加者が親子同伴で毎年増加し、リピーターも増えたことにより本学が地域の子どもたちのものづくり教室の核となりつつあります。
今後の改善内容 及び展開		子どもたちを指導する小学校の先生は、主に文系出身ということから科学やものづくり等を苦手とする方が多い状況です。そのため、主に「小学校の先生方を対象に科学やものづくり教室」を開催したいと思っておりますので、ご協力いただければ幸いです。

太陽光と風力を用いた親子ものづくり教室





九州共立大学
KYUSHU KYORITSU UNIVERSITY

平成25年度 九州共立大学『地域貢献・連携事業』報告書
発行 平成27年 3 月

学校法人福原学園
九州共立大学・九州女子大学・九州女子短期大学

生涯学習研究センター

〒807-8585 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8
TEL&FAX 093-691-6550 E-mail longlife@kwuc.ac.jp